

Voilà! C'est la vie!

ボワラ
カメルーンからこんにちは
2023年2月 №13 (treize)
ビ
JICA 海外協力隊 2021 年度 3 次隊 小島由紀子

日本は今が一番寒い時期ですね。カメルーンは一年で一番暑い時期に近づいています。痛いほどに射す日差しと、35度を超える気温に、私は毎日汗がとまりません。雪の中に思いっきり飛び込みたいなあ！雪遊びしたいなあ！と思う毎日です。今月はバレンタインデーがあり、日本ではチョコレートを作ったり買ったりすることにわくわくする時期かもしれませんね。今回は、そんなチョコレートにまつわるお話です。



チョコレートの原料「カカオ」

チョコレートは何から作られているか知っていますか？

チョコレートは、カカオという実の種からできています。でも、そのカカオは赤道の近くの高温多湿（あつくてむしむしした）な地域でしか育たないため、日本ではほとんど栽培することができません！そのため、日本のチョコレートは外国のカカオを使って作られたものです。そのおよそ90%※は、アフリカのガーナという国のカカオを使っています。

（※日本チョコレート・ココア協会「日本の主要カカオ豆 国別輸入量推移」より）

世界のカカオ豆生産量ランキング		
	生産国	生産量 (千トン)
1位	コートジボワール	2180
2位	ガーナ	812
3位	インドネシア	784
4位	ナイジェリア	350
5位	エクアドル	284
6位	カメルーン	280

※外務省 HP 「キッズ外務省」
世界いろいろ雑学ランキング より



実はこんなに大きい！

花は親指の爪くらいの
小ささ！

カカオは、カメルーンでもたくさんつくられています。生産量は世界6位！そして私の住むバフィアは、カメルーン国内でも有名なカカオの産地の1つです。街を歩いていると、あちこちでカカオの木を見ることができます！！

木のみきにいっぱい
ついていて、おもしろい!



しゅうかくじき
収穫時期9~11月

カカオの実(カカオポッドと呼ぶこともあります。)は、カカオの木の枝
や幹から生えています。ラグビーボールのような形をしていて、ずっ
りとした重さがあります。



カメルーンの人たちは、このカカオの実を割って、中の種をつつんでいる白い
部分を吸いながら味わいます。私も食べてみました。種を吸うようになめてみる
と、ちょっとあまずっぱくて、チョコレートとはまったく違う味がしました!

それもそのはず! チョコレートやココアを作るために
使われるのは、白い果肉の中にある「種」です。1つ
のカカオの実(カカオポッド)の中には 50~60個くらい
の種が入っていました。



カカオの種がチョコレートの材料「カカオ豆」になるまで...

カカオ農家の人は、カカオの実(カカオポッド)から種をとったあと、3日間ほど、袋に入れて置いておきます。これは実を
発酵させるためです。

発酵させたカカオの種は、太陽の下で乾かします。収穫の時期になるとバフィ
アでは、街のあちこちでカカオを天日干しているのを見ることができます。この
時期は街を歩いていると、あちこちからまるで苦いチョコレートのようなカカオの
香りがしていました♪



一週間ほど乾かししたら、チョコレート
のもとになる「カカオ豆」の完成です!
あとは袋に詰めて、カカオを買ってくれる
人に売るそうです。



これを小さく削いて、さとうなどと
まぜると、チョコレートになるよ!



カメルーンでは、カカオ豆をチ
ョコレートだけでなく、カカオバタ
ーやカカオ豆のお菓子などにも
して売っています♪

男の人の腰くらいまである大きな袋にパン
パンにつめられたカカオ豆は、約40,000円。
1kg約300円で売られるそうです。

売られたカカオ豆は、カメルーン国内でチョコ
レートにしたり、港から船で運んでヨーロッパの
国や中国にさらに売られたりするとのことでした。



カメルーンでみーっけ！



この写真をじっくり見て考えてみよう！ **これはなにをしているのかな？**



これは、木がたおれて道が通れなくなってしまったのかな？^{おも}思った人が多^{おお}いかもしれませんが、^{じつ}実はそうではありません。これは、道を通れなくするために、^{ちかく}近くに生^はえている木を切^きってわざと道のまんなかに^お置^おいているのです。

日本^{にっぽん}だったら、^{つうこうど}通行止めにするときに、カラーコーンを置いたり看板を立てたりしますね。でも、カメルーンでは、このように^{まわり}周りに生^はえている草や木^{つか}を使^{つか}います。この日も大きな^{ぎやうじ}行事があるため、^{くるま}車やバイクが通れないように、^{みち}道をふさいでいました。



別の^{べつ}道路^{どうろ}では、^{どうろ}道路のまんなかにある^{そっこう}側溝^きに、切^きった木をさして^{みち}道をふさいでいました。

初^{はじ}めは、「ええ？なんで木を切^きってしまったの？」と^{おどろ}驚^{おどろ}きましたが、この方法^{ほうほう}ならカラーコーンがなくても、^{みち}すぐに道をふさぐことができます。^{まわり}周りにあるものを^{じやうず}上手^{つか}に使^{つか}うカメルーンの人たちのすてきな^{ちえ}知^{ちえ}恵^えですね。

